プロフィール

山本 由美さん　和光大学

和光大学現代人間学部教授。
学校選択制、学校統廃合、小中一貫教育などの現代の新自由主義教育改革について調査研究し、それらが子どもに与える影響についても研究。近年、特に最近急増した小中一貫校を利用した学校統廃合のケースを調査対象にしている。
「学力テスト体制とは何か　ー学力テスト、学校統廃合、小中一貫教育ー」　花伝社
「学校統廃合に負けない！小さくてもきらりとかがやく学校をめざして」花伝社　「地域が子どもを守る　ー東京・東久留米の学校統廃合を考えるー」ケイ・アイ・メデイア
「何のための小中一貫教育か」花伝社　など編著書多数。

市民学習会

小中一貫教育ってなあに

～子どもの成長から考える～

市内の小・中学校すべてが対象

和泉市における小中一貫教育は、２０１７年度までに市内すべての小・中学校で実施する計画です。はつが野地区に建設予定の施設一体型小中一貫校の校区だけでなく、市内に住む全児童・生徒に直接影響を及ぼしてくる問題です。「うちの子は関係ない」とは言っていられません。

[illegible]

小中一貫教育で先生たちの働き方はどう変わるのでしょうか。先生は、子どもの話をゆっくり聞いたり、明日の授業準備をしっかりしたいと思っています。しかし、小中一貫教育のための研修会や打ち合わせの会議などの仕事が上乗せされ、結果として本来の教育活動に支障がでるようでは、本末転倒です。一方的な小中一貫教育の押しつけは、子どもたちのためになりません。

子どもたちへの影響は?

小中一貫教育は子どもたちにどのような影響を与えているのでしょうか。

今回の講演では小中一貫校とそれ以外の学校の大規模比較アンケート結果の一部も紹介しながら、子どもたちの健やかでダイナミックな成長を支える教育のあり方を参加者の皆さんとともに考えていきたいと思います。

是非ご参加下さい。

と　き

2014年
７月２６日(土)
午前9:30開場　10:00開会

参加費無料

ところ

和泉シティプラザ
（和泉中央駅から徒歩３分）　電話:0725-57-6660

Ｂ１多目的室

私たちの願いは子どもたちの豊かな成長

和泉市の小中一貫教育

小学校・中学校の枠組は変えない

全国の小中一貫教育校では、４・３・２制（小中9年間を、小1~小4、小5~中1、中2~中3の3つに分ける制度）など6・3制を変更した取り組みで問題が多発しています。こうした中で、和泉市ではあくまで6・3制の枠組みを変えずに取り組むとしていることは重要な回答だといえます。

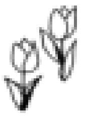
各地の一貫教育実施校では、中学から小学校への乗り入れ授業の押しつけなど、画一的な取り組みが強制されていますが、和泉市ではあくまで「各中学校区の状況に応じて行います」としていることも重要です。

子どもたちが、のびのびと元気に育ち、ゆたかに成長していくことは、保護者だけでなく、地域住民みんなの願いです。今回の回答に基づき各中学校区で、よく教職員と保護者、地域住民が話し合い、「子どもたちにとってどうか」という視点で、とりくみを決めていくことが大切です。

巨大化したマンモス校の解消を

早急に抜本的な対策を

青葉はつが野小学校の児童数が１，１２１人となり、和泉市小中31校の中で、最大となりました。特に、１年生は、２３６人で7クラスと大変な児童数になっています。市教委は、新設校建設の目的に大規模校化の解消をあげています。しかし、新設校（平成29年４月開校予定）の予定校区、はつが野4~6丁目からは、まだ、数名の児童しか来ていません。

ということは、新設校ができても青葉はつが野小の大規模校化は解消できないということです。地域住民の声をよく聞き、大規模校解消に向けて独自の抜本的な対策をとることが、早急に求められているのではないでしょうか。